

LE 2016

プレイタイム！ Play Time!

フランスのリュミエール兄弟がシネマトグラフを一般公開した 1895年は、映画生誕の年とされている。それから程なくして、映画は世界各地への旅を始めた。見知らぬ土地やエキゾチックな風景を収めるために、カメラマンを派遣したのである。

映画はしばしば世界を見る窓に例えられるが、風景との出会いはドキュメンタリーに留まらず、劇映画の舞台設定としても重視される。ストーリーが退屈な時に、観客を飽きさせない手立てとして舞台を変えるのは、むしろ安易とさえ言える。このように、映画と旅はその発生当初から親和的な関係にあった。そして時間芸術である映画は、現実では不可能な、不可逆的な時間の流れも、やすやすと越えてゆく。

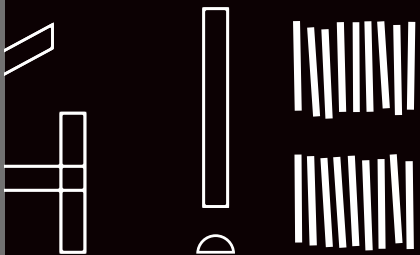
メディアが多様化した映像時代の今日、フィルムからビデオへ、さらにネットへという越境も起きている。国境や時代、ジャンルやメディアを超越した、摩訶不思議な映像の旅を、皆様、お楽しみください。

The year 1895, when the Lumière brothers of France first unveiled their cinematograph to the public, is regarded as the year cinema was born. Shortly thereafter, cinema set off on a journey that would take it all over the world. Cameramen were sent off to capture unfamiliar lands and exotic scenery. Cinema is often likened to a window to view the world, but opportunities to encounter scenery are not limited to documentaries, as importance is also attached to it in the choice of settings for narrative films. Indeed, one could probably even say it is easy to change the setting as a means of ensuring audiences do not become bored at times when the story is dull. As these examples show, there has been a harmonious relationship between film and travel since the birth of cinema. Moreover, as a temporal art form, film also defies with ease the irreversible flow of time – something impossible in the real world. Today, in a digital age in which media have diversified, we are also witnessing a crossing of boundaries from film to video and to the Internet. So relax and enjoy this profoundly mysterious visual journey that transcends national borders, ages, genres and media.



FILM PROGRAM

アネス・ヴァリダ「キューバのみなさん、こんにちは」1933 Photo: Agnès Varda



SCHEDULE 上映スケジュール ★劇場公開に先駆け先行上映 ●国際展チケット提示不要

愛知芸術文化センター 12F アートスペース A

8/19(金)	16:40	N-90	『バリクバヤン #1』★	9/1(木)	18:00	N-80, N-86, N-94	「短編集3」
	19:15		オープニングイベント「東と西」●キドラック・タヒミック×港千尋 言語：英語・日本語による通訳あり ～20:45		19:00	N-78	『都市と都市のあいだ』～20:18
8/20(土)	10:30	N-78	『都市と都市のあいだ』	9/2(金)	17:30	N-76	『千の太陽』
	12:10	N-79	『モツ・マエヴァ』		18:35	N-87, N-84, N-85	「短編集2」
	13:30	N-92	『孤島の葬列』	9/3(土)	19:45		ゲストトーク「夜の虹」●ミヤギフトン ～20:30
	15:35	N-75	『残響世界』		11:00	N-92	『孤島の葬列』
	17:40	N-91	『変魚路』★		13:40	N-89, N-95, N-93	「短編集1」★
8/21(日)	19:40	N-89, N-95, N-93	「短編集1」★ ～20:30	14:50	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』	
	11:00	N-96, N-97, N-88	「短編集4」	16:20	N-75	『残響世界』	
8/23(火)	12:35	N-79	『モツ・マエヴァ』	18:40	N-83	『彷徨える河』★ ～20:45	
	13:50	N-76	『千の太陽』	9/4(日)	11:00	N-87, N-84, N-85	「短編集2」
	15:55	N-82	『南極から赤道まで』		12:40	N-78	『都市と都市のあいだ』
	17:45	N-96, N-97, N-88	「短編集4」	14:20	N-80, N-86, N-94	「短編集3」	
	19:35	N-89, N-95, N-93	「短編集1」★ ～20:25	15:20	N-76	『千の太陽』	
8/24(水)	17:40	N-87, N-84, N-85	「短編集2」	16:25	N-92	『孤島の葬列』 ～18:10	
	19:00	N-78	『都市と都市のあいだ』 ～20:18	9/6(火)	18:30	N-79	『モツ・マエヴァ』
8/25(木)	18:30	N-74	『凱里ブルース』 ～20:20		19:35	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』 ～20:46
	17:30	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』	9/7(水)	17:40	N-87, N-84, N-85	「短編集2」
19:00	N-80, N-86, N-94	「短編集3」	19:00		N-92	『孤島の葬列』 ～20:45	
8/26(金)	17:25	N-96, N-97, N-88	「短編集4」	9/8(木)	17:55	N-75	『残響世界』
	19:00	N-92	『孤島の葬列』 ～20:45		20:00	N-76	『千の太陽』 ～20:45
	11:40	N-79	『モツ・マエヴァ』	9/9(金)	18:00	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』
	13:00	N-80, N-86, N-94	「短編集3」		19:30	N-79	『モツ・マエヴァ』 ～20:12
	14:00	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』		9/10(土)	11:00	N-80, N-86, N-94
15:30	N-75	『残響世界』	12:20	N-75		『残響世界』	
8/27(土)	17:50	N-74	『凱里ブルース』	14:25	N-74	『凱里ブルース』	
	19:50		ゲストトーク「旅・移動・移民」●金子遊 ～20:35	16:30	N-81	『HOMO SAPIENS』(原題)★	
	10:00	N-78	『都市と都市のあいだ』	18:20	N-90	『バリクバヤン #1』★ ～20:46	
	11:40	N-79	『モツ・マエヴァ』	9/11(日)	10:25	N-96, N-97, N-88	「短編集4」
	13:00	N-80, N-86, N-94	「短編集3」		12:00	N-82	『南極から赤道まで』
14:00	N-77	『アスマハーンの耐えられない存在感』	14:20	N-89, N-95, N-93	「短編集1」★		
15:30	N-75	『残響世界』	15:30	N-82	『南極から赤道まで』		
17:00	N-82	『南極から赤道まで』	17:30	N-91	『変魚路』★		
8/28(日)	19:10	N-81	『HOMO SAPIENS』(原題)★ ～20:44	9/10(土)	11:00	N-80, N-86, N-94	「短編集3」
	10:45	N-96, N-97, N-88	「短編集4」		12:20	N-75	『残響世界』
	12:35	N-82	『南極から赤道まで』	14:25	N-74	『凱里ブルース』	
	14:35	N-76	『千の太陽』	16:30	N-81	『HOMO SAPIENS』(原題)★	
	15:40	N-87, N-84, N-85	「短編集2」	18:20	N-90	『バリクバヤン #1』★ ～20:46	
17:00	N-82	『南極から赤道まで』	9/11(日)	10:25	N-96, N-97, N-88	「短編集4」	
19:10	N-81	『HOMO SAPIENS』(原題)★ ～20:44		12:00	N-82	『南極から赤道まで』	
8/31(水)	14:00 - 16:30		150分]	14:20	N-89, N-95, N-93	「短編集1」★	
			活井イベント「我々の旅」作品上映&トーク：安井喜雄(プラネット映画資料図書館代表)×越後谷卓司	15:30	N-82	『南極から赤道まで』	
				17:30	N-91	『変魚路』★	
				19:00		ゲストトーク「芝居と映画」●高嶺剛×港千尋 ～19:45	

上映時間合計 135分 作品	【弁士と生演奏付き上映】	弁士：大森くみこ 演奏：柳下美恵	【弁士付きトーキー版上映】
	◎ジャン・ルノワール『マッチ売りの少女』1928年 / 16mm / サイレント 16コマ / 44分	◎山本早苗『日本一 桃太郎』1928年 / 35mm / サイレント 16コマ / 14分	◎大村白山『夢の海鳥』1942年 / 35mm / トーキー 24コマ / 8分 解説：牧野周一 『ハンキナウトサン電宮祭り』(1925)の活弁トーキー版
	◎大藤信郎『西遊記 孫悟空物語』1926年 / 35mm / サイレント 16コマ / 8分	◎政岡憲三『ターチンの海底旅行』1935年 / 35mm / サイレント 24コマ / 8分	◎伊賀山正徳『海魔陸を行く』1950年 / 35mm / トーキー 24コマ / 53分 解説：徳川夢声 活弁と演奏付きトーキー

国際展チケットで何度でも入場できます

受付にて国際展チケットをご提示ください。ただし地区限定チケットは、それぞれの地区の作品のみご買頂けます。各回上映の20分前より、岡崎地区の上映は1時間前より、豊橋地区のトークは30分前より受付いたします。

VENUES 会場

名古屋 愛知芸術文化センター 12F アートスペース A
地区 愛知県芸術劇場 小ホール(愛知芸術文化センター B1F)
名古屋市中区東横 1-13-2
●地下鉄東山線または名城線「栄」駅下車 ●名鉄瀬戸線「栄町」駅下車

地下鉄伏見駅旧サービスセンター
名古屋市中区錦 2-16-24 先 南栄口付近
※作品鑑賞には、伏見駅の出口2～出口9をご利用ください。

岡崎 松應寺
岡崎市松本町 42
●名鉄名古屋本線「東岡崎」下車
名鉄バス1～8、16系統「能見町停留所」下車

豊橋 豊橋市公会堂
豊橋市八町通 2-22
●名鉄名古屋本線「豊橋駅」下車
豊橋鉄道市内線「市役所前」下車

あいちトリエンナーレ 2016

芸術監督：港千尋 テーマ：虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
キュレーター(映像プログラム)：越後谷卓司、濱治佳

会期：2016年8月11日(木・祝)～10月23日(日)
主な会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋・豊橋・岡崎市内のまちなか

主催：あいちトリエンナーレ実行委員会
〒461-8525 名古屋市中区東横1-13-2 愛知芸術文化センター6階
TEL: 052-971-6111 FAX: 052-971-6115
filmprogram@aichitriennale.jp

公式Webサイト | <http://aichitriennale.jp/>
f /AICHTRIENNALE
@Aichi_Triennale #あいちトリエンナーレ
aichitriennale

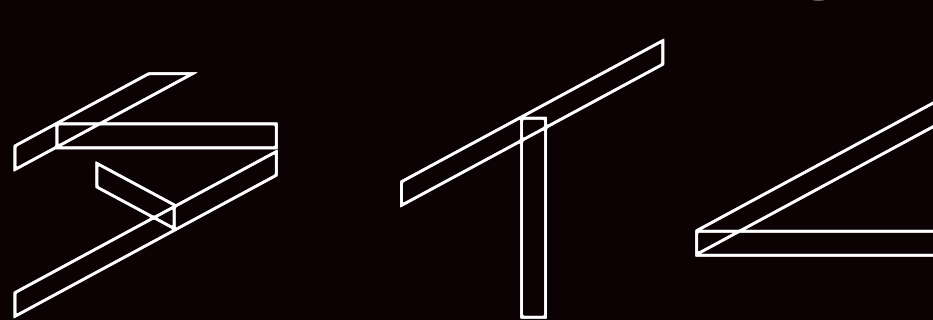


AICHI TRIENNALE

Play



Time



あいちトリエンナーレ 2016 映像プログラム

2016年8月19日[金]ー9月11日[日]
August 19 (Fri) – September 11 (Sun), 2016

名古屋 愛知芸術文化センター12F アートスペースA
地区 8月30日[火]、31日[水] 愛知県芸術劇場小ホール(愛知芸術文化センター B1F)

そのほか次の会場でもご覧いただけます。 名古屋 8月11日[木・祝]ー10月23日[日] 岡崎 9月17日[土] 豊橋 9月30日[金]
地区 地下鉄伏見駅旧サービスセンター 地区 松應寺 地区 豊橋市公会堂

※全ての作品を愛知芸術文化センターにて上映する予定です。
主催：あいちトリエンナーレ実行委員会



AICHI TRIENNALE 2016

Play Time!



FILM PROGRAM

アニエス・ヴァルダ『キユーハのみなさん、こんばんは』1983 © Agnès Varda

SCHEDULE 上映スケジュール

★劇場公開に先駆け先行上映 ●国際展チケット提示不要

愛知芸術文化センター 12F アートスペース A
8/19(金) 16:40 N-90 『バリクバヤン #1』★
19:15 オープニングイベント「東と西」●キドラック・タヒミック × 港千尋 言語：英語・日本語による通訳あり ~20:45
8/20(土) 10:30 N-78 『都市と都市のあいだ』
12:10 N-79 『モツ・マエヴァ』
13:30 N-92 『孤島の葬列』
15:35 N-75 『残響世界』
17:40 N-91 『変魚路』★
19:40 N-89、N-95、N-93 『短編集1』★ ~20:30
8/21(日) 11:00 N-96、N-97、N-88 『短編集4』
12:35 N-79 『モツ・マエヴァ』
13:50 N-76 『千の太陽』
15:55 N-82 『南極から赤道まで』
17:45 N-96、N-97、N-88 『短編集4』
19:35 N-89、N-95、N-93 『短編集1』★ ~20:25
8/23(火) 17:40 N-87、N-84、N-85 『短編集2』
19:00 N-78 『都市と都市のあいだ』 ~20:18
8/24(水) 18:30 N-74 『凱里ブルース』 ~20:20
8/25(木) 17:30 N-77 『アスマハーンの耐えられない存在感』
19:00 N-80、N-86、N-94 『短編集3』
19:50 ゲストトーク「映像・映画の越境」●大木裕之 × 濱 治佳 ~20:35
8/26(金) 17:25 N-96、N-97、N-88 『短編集4』
19:00 N-92 『孤島の葬列』 ~20:45
8/27(土) 10:00 N-78 『都市と都市のあいだ』
11:40 N-79 『モツ・マエヴァ』
13:00 N-80、N-86、N-94 『短編集3』
14:00 N-77 『アスマハーンの耐えられない存在感』
15:30 N-75 『残響世界』
17:50 N-74 『凱里ブルース』
19:50 ゲストトーク「旅・移動・移民」●金子 遊 ~20:35
8/28(日) 10:45 N-96、N-97、N-88 『短編集4』
12:35 N-82 『南極から赤道まで』
14:35 N-76 『千の太陽』
15:40 N-87、N-84、N-85 『短編集2』
17:00 N-82 『南極から赤道まで』
19:10 N-81 『HOMO SAPIENS』(原題)★ ~20:44
8/31(水) 14:00 - 16:30 [150分]
活弁イベント「発掘の旅」 作品上映&トーク： 安井喜雄(プラネット映画資料図書館代表) × 越後谷卓司

9/1(木) 18:00 N-80、N-86、N-94 『短編集3』
19:00 N-78 『都市と都市のあいだ』~20:18
9/2(金) 17:30 N-76 『千の太陽』
18:35 N-87、N-84、N-85 『短編集2』
19:45 ゲストトーク「夜の虹」●ミヤギフトン ~20:30
9/3(土) 11:00 N-92 『孤島の葬列』
13:40 N-89、N-95、N-93 『短編集1』★
14:50 N-77 『アスマハーンの耐えられない存在感』
16:20 N-75 『残響世界』
18:40 N-83 『彷徨える河』★ ~20:45
9/4(日) 11:00 N-87、N-84、N-85 『短編集2』
12:40 N-78 『都市と都市のあいだ』
14:20 N-80、N-86、N-94 『短編集3』
15:20 N-76 『千の太陽』
16:25 N-92 『孤島の葬列』 ~18:10
9/6(火) 18:30 N-79 『モツ・マエヴァ』
19:35 『アスマハーンの耐えられない存在感』 ~20:46
9/7(水) 17:40 N-87、N-84、N-85 『短編集2』
19:00 N-92 『孤島の葬列』 ~20:45
9/8(木) 17:55 N-75 『残響世界』
20:00 N-76 『千の太陽』 ~20:45
9/9(金) 18:00 N-77 『アスマハーンの耐えられない存在感』
19:30 N-79 『モツ・マエヴァ』 ~20:12
9/10(土) 11:00 N-80、N-86、N-94 『短編集3』
12:20 N-75 『残響世界』
14:25 N-74 『凱里ブルース』
16:30 N-81 『HOMO SAPIENS』(原題)★
18:20 N-90 『バリクバヤン #1』★ ~20:46
9/11(日) 10:25 N-96、N-97、N-88 『短編集4』
12:00 N-82 『南極から赤道まで』
14:20 N-89、N-95、N-93 『短編集1』★
15:30 N-82 『南極から赤道まで』
17:30 N-91 『変魚路』★
19:00 ゲストトーク「芝居と映画」●高嶺 剛 × 港千尋 ~19:45

上映時間合計	作品	【弁士と生演奏付き上映】	【弁士付きトーキー版上映】
135分	◎大藤信郎『西遊記 孫悟空物語』1926年 / 35mm / サイレント 16コマ / 8分	◎山本早苗『日本一桃太郎』1928年 / 35mm / サイレント 16コマ / 14分	◎大村白山『夢の浦島』1942年 / 35mm / トーキー 24コマ / 8分 ◎伊賀山正徳『海魔殿に行く』1950年 / 35mm / トーキー 24コマ / 53分
135分	◎大藤信郎『西遊記 孫悟空物語』1926年 / 35mm / サイレント 16コマ / 8分	◎政岡憲三『ターチャンの海底旅行』1935年 / 35mm / サイレント 24コマ / 8分	◎伊賀山正徳『海魔殿に行く』1950年 / 35mm / トーキー 24コマ / 53分
135分	◎大藤信郎『西遊記 孫悟空物語』1926年 / 35mm / サイレント 16コマ / 8分	◎政岡憲三『ターチャンの海底旅行』1935年 / 35mm / サイレント 24コマ / 8分	◎伊賀山正徳『海魔殿に行く』1950年 / 35mm / トーキー 24コマ / 53分

国際展チケットで何度でも入場できます

VENUES 会場

名古屋 愛知芸術文化センター 12F アートスペース A
地区 愛知県芸術劇場 小ホール (愛知芸術文化センター B1F)
名古屋東区東横1-13-2
●地下鉄東山線または名城線「栄」駅下車 ●名鉄瀬戸線「栄町」駅下車

地下鉄伏見駅旧サービスセンター
名古屋市中区錦2-16-24先 南改札口付近
※作品鑑賞には、伏見駅の出口2~出口9をご利用ください。

岡崎 松應寺
地区 岡崎市松本町42
●名鉄名古屋本線「岡崎駅」下車
●名鉄バス1~8、16系統「能見町停留所」下車

豊橋 豊橋市公会堂
地区 豊橋市八町通2-22
●名鉄名古屋本線「豊橋駅」下車
●豊橋鉄道市内線「市役所前」下車

あいちトリエンナーレ 2016 映像プログラム

2016年8月19日[金] - 9月11日[日]
August 19 (Fri) - September 11 (Sun), 2016

名古屋 愛知芸術文化センター 12F アートスペース A
地区 8月30日[火]、31日[水] 愛知県芸術劇場 小ホール (愛知芸術文化センター B1F)

そのほか次の会場でも
名古屋 8月11日[木・祝] - 10月23日[日] 岡崎 9月17日[土] 豊橋 9月30日[金]
ご覧いただけます。 地区 地下鉄伏見駅旧サービスセンター 地区 松應寺 地区 豊橋市公会堂

※全ての作品を愛知芸術文化センターにて上映する予定です。
主催：あいちトリエンナーレ実行委員会



作品提供・協力：Anna Sanders Films、ARGOS distribution、特定非営利活動法人 芸術公社、陳 界仁(チェン・ジュエレン)、China Film International、シネマトリックス、ciné-tamaris、Christophe Gauty、Yervant Gianikian & Angela Ricci Lucchi、変魚路製作委員会、広島国際映画祭、イメージフォーラム、伊藤高志、Boris Labbé、L'Agence du court métrage、Le G.R.E.C.、ミヤギフトン、小川 育、Lois Patiño、プラネット映画資料図書館、Sacredbleu Productions、Seashore Image、(株)新日本映画社/エスペース、サロウ、Georges Schwitzgebel、ショートショート フィルムフェスティバル & アジア中国インディペンデント映画祭、Studio GDS、The Film Gallery、東京国際映画祭、(株)トレノバ、Mischief Films、Mosquito Films Distribution、認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭、ヤマムラアニメーション(有)、横浜美術館、幸 洋子 会場提供：松應寺

http://aichitriennale.jp/

あいちトリエンナーレ 2016

会期：2016年8月11日(木・祝) ~ 10月23日(日)
主な会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋・豊橋・岡崎市内のまちなか

芸術監督：港千尋 テーマ：虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
キュレーター(映像プログラム)：越後谷卓司、濱 治佳

主催：あいちトリエンナーレ実行委員会
〒461-8525 名古屋東区東横1-13-2 愛知芸術文化センター6階
TEL: 052-971-6111 FAX: 052-971-6115
filmprogram@aichitriennale.jp

公式Webサイト | http://aichitriennale.jp/
#AICHITRIENNALE
@Aichi_Triennale #あいちトリエンナーレ
aichitriennale



AICHI TRIENNALE 2016
FILM PROGRAM

愛知県芸術劇場 小ホール (愛知芸術文化センター B1F)

8/30(火) 17:00		
18:30	N-98	『三人の女』
20:00		~20:35
8/31(水) 11:00		
13:30	N-98	『三人の女』
15:00		
16:30		
17:15		ゲストトーク「第三の映画」●伊藤高志 × 荒木優光 × 港千尋 (於：ロビー) ~18:00
18:30	N-98	『三人の女』 ~19:05

伊藤高志 『三人の女』
各回上演の15分前より受付にて整理券を配布いたします。優先予約も承ります。ご予約の際は、件名を「『三人の女』上演鑑賞希望」とし、①お名前 ②お電話番号 ③ご希望の鑑賞日時をお書き添えください。
ご予約・お問い合わせ
E-mail: filmprogram@aichitriennale.jp

岡崎 松應寺

9/17(土) 17:00 O-16 『彷徨える河』★ ~19:05

豊橋市公会堂

9/30(金) 18:00 ゲストトーク「魔術の宵」山村浩二 × 港千尋
19:00 T-21、T-23、T-22 『短編集1』★ ~19:50

地下鉄伏見駅旧サービスセンター

8/11(木・祝) ~ 9/16(金)	11:00~19:00 金曜 20:00 まで	N-102 N-99 N-101	『短編集 5』●
8/22(月) 9/12(月) 休み			
9/17(土) ~ 10/23(日) 10/3(月) 休み	11:00~19:00 金曜 20:00 まで	N-100 N-102 N-101	『短編集 6』●

トリエンナーレの主会場から離れた県内4カ所で開催する「モバイル・トリエンナーレ」でも、映像プログラムを開催します。詳しくはホームページをご覧ください。

http://aichitriennale.jp/

プレイタイム! Play Time!

フランスのリュミエール兄弟がシネマトグラフを一般公開した1895年は、映画生誕の年とされている。それから程なくして、映画は世界各地への旅を始めた。見知らぬ土地やエキゾチックな風景を収めるために、カメラマンを派遣したのである。

映画はしばしば世界を見る窓に例えられるが、風景との出会いはドキュメンタリーに留まらず、劇映画の舞台設定としても重視される。ストーリーが退屈な時に、観客を飽きさせない手立てとして舞台を変えるのは、むしろ安易とさえ言える。このように、映画と旅はその発生当初から親和的な関係にあった。そして時間芸術である映画は、現実では不可能な、不可逆的な時間の流れも、やすやすと越えてゆく。

メディアが多様化した映像時代の今日、フィルムからビデオへ、さらにネットへという越境も起こっている。国境や時代、ジャンルやメディアを超越した、摩訶不思議な映像の旅を、皆様、お楽しみください。

The year 1895, when the Lumière brothers of France first unveiled their cinematograph to the public, is regarded as the year cinema was born. Shortly thereafter, cinema set off on a journey that would take it all over the world. Cameramen were sent off to capture unfamiliar lands and exotic scenery. Cinema is often likened to a window to view the world, but opportunities to encounter scenery are not limited to documentaries, as importance is also attached to it in the choice of settings for narrative films. Indeed, one could probably even say it is easy to change the setting as a means of ensuring audiences do not become bored at times when the story is dull. As these examples show, there has been a harmonious relationship between film and travel since the birth of cinema. Moreover, as a temporal art form, film also defies with ease the irreversible flow of time – something impossible in the real world. Today, in a digital age in which media have diversified, we are also witnessing a crossing of boundaries from film to video and to the Internet. So relax and enjoy this profoundly mysterious visual journey that transcends national borders, ages, genres and media.